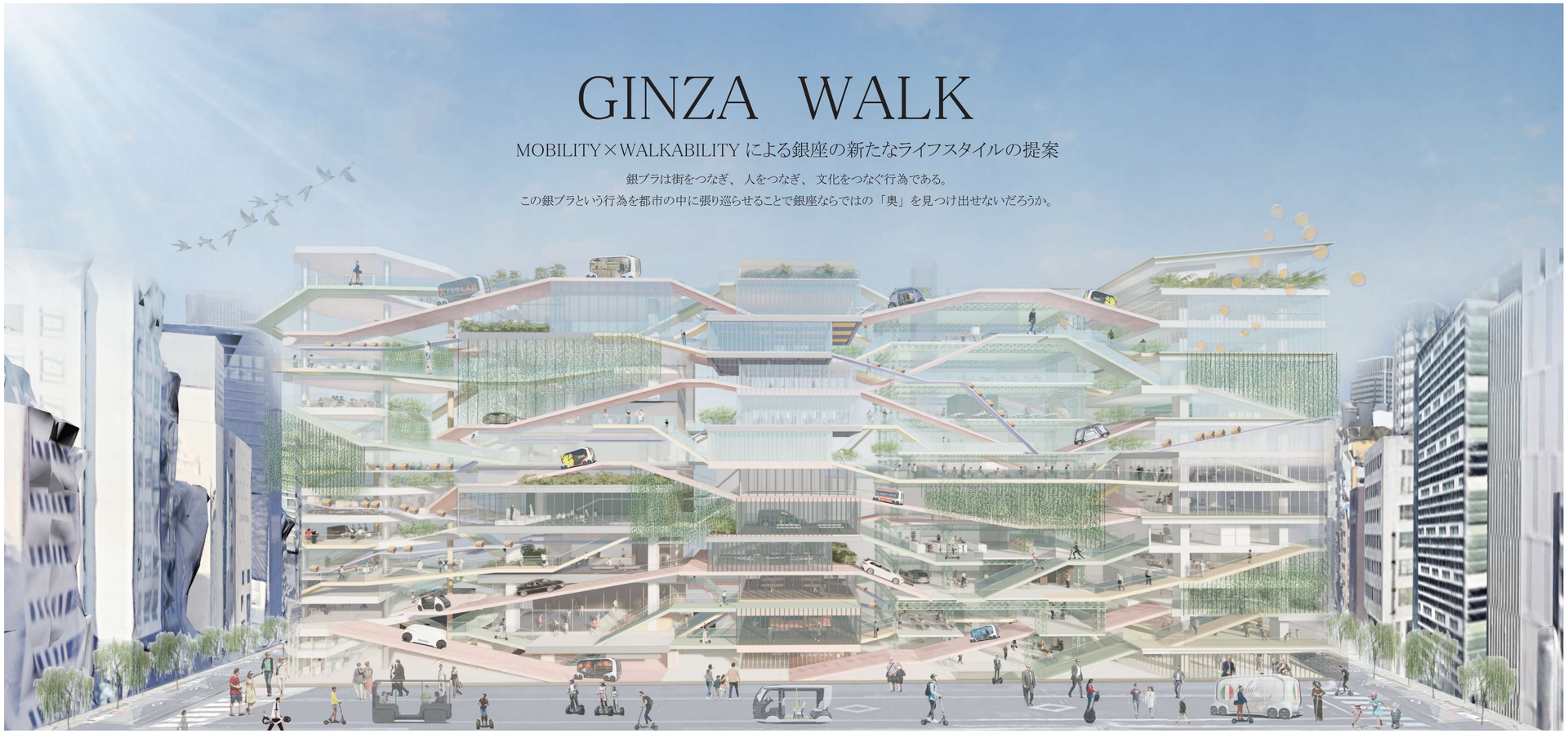
GINZA WALK

MOBILITY×WALKABILITY による銀座の新たなライフスタイルの提案

銀ブラは街をつなぎ、 人をつなぎ、 文化をつなぐ行為である。
この銀ブラという行為を都市の中に張り巡らせることで銀座ならではの「奥」を見つけ出せないだろうか。



HOME 棟 : 登校・出社
未来の MOBILITY で施設に訪れる。

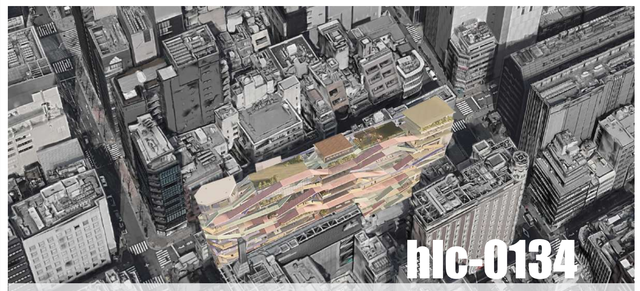
ART 棟
ART のコンテンツを取り巻く動線が上層階まで行き届き立体的銀ブラとなる。

EVENT 棟から FASHION 棟へ
コンテンツ同士が道によりつながり、 異分野のコンテンツを体験する。

HOME 棟から FOOD 棟へ
会社員による仕事終わりの銀ブラ。 FOOD 棟のレストランや FASHION 棟の POP UP に訪れる。

FOOD 棟 : 室内菜園
HOME 棟から訪れた子どもへの菜園プログラム。 収穫された食材はロボットレーンにより各棟に送られる。

EVENT 棟 : イベント会場
FASHION×EVENT のコラボでファッションショーが行われる。 MOBILITY に乗りながら中のプログラムをのぞく。



銀座にある多様なタワーやコンテンツが繋がり、まちのつながりの拠点となる。

01. 未来の銀座の姿

①銀座の WALKABILITY =「未来の銀ブラ」

未来における WALKABILITY とは歩くことだけではない。 高密度化した都市を網目状に自由に動き回ることである。 銀座は日本を先導する WALKABILITY を行う場所となり、「未来の銀ブラ」を創り出す。

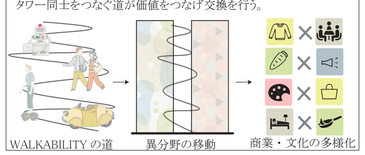
②未来における MOBILITY の価値

現在、 セグウェイや小型 MOBILITY の登場により交通革命が起き、 MOBILITY の価値が上昇している。 また、 モノの所有の概念も変化し、「所有からシェアへ」の移行が進められている。

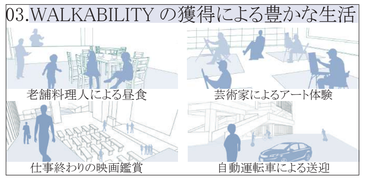
02.MOBILITY×WALKABILITY の価値

①タワー上層部も銀ブラの範囲へ
都市においてタワー内でコンテンツの分離が行われる。 タワー内では人目のつきやすい商業用途の低層部とオフィス化されやすい高層部で賑わいの差が生じる。 この提案で MOBILITY の道をタワー間に張り巡らせることで、アクセスが向上し上層部にも賑わいが生じる。

②道による異分野のコラボレーション
タワー同士をつなぐ道が価値をつなげ交換を行う。

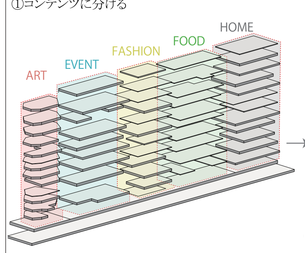


03.WALKABILITY の獲得による豊かな生活

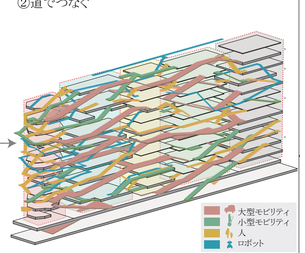


04. 立体的銀ブラ

①コンテンツに分ける



②道でつなぐ

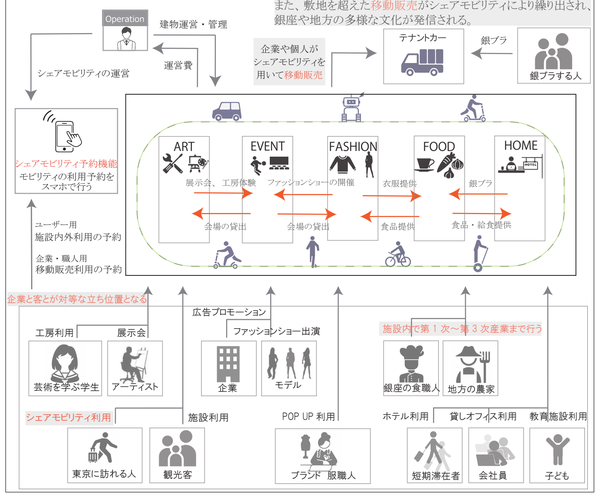


5つのヴォリュームにそれぞれキャラクター性をもつコンテンツを集約させる。 分棟されたコンテンツは銀座の多様性を象徴し、 縦にコンテンツを分けることが汎用性のあるルールとなる。

MOBILITY の道により分棟化されたコンテンツをつなげる。 タワーを超えた文化・ものなどの情報のやりとりを行うことができる。 道により建物間を回遊することができ、 立体的な新しい銀ブラを創り出す。

05. 新しいビルタイプの相互作用性

シェアモビリティにより、 コンテンツを超えたコラボを生み出す。
また、 敷地を超えた移動販売がシェアモビリティにより繰り出され、 銀座や地方の多様な文化が発信される。

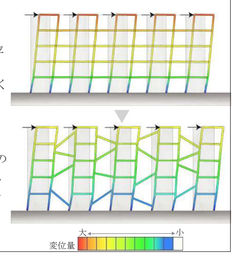


06. 道による構造計画

モビリティの動線による水平方向の耐力向上

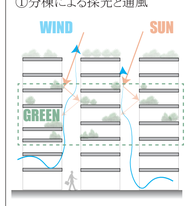
○水平スラブで繋いだとき
従前の施設ではスラブが水平方向に一直線で結ばれるため、 地震時の変位量が大きくなる。

○斜めスラブで繋いだとき
この施設では、 MOBILITY の道がタワー間の緩衝材となり、地震時の変位量を小さく抑える。



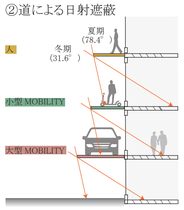
07.MOBILITY の道を活用した環境計画

①分棟による採光と通風



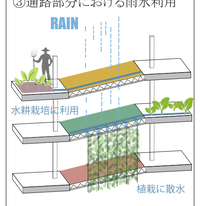
分棟の構造を活かして、 採光を取り入れる。 また、 換気口や吹き抜けにより重力換気を行う。

②道による日射遮蔽



MOBILITY の道が庇の役割を担い、日射を遮蔽することで室内における冷房負荷を低減する。

③通路部分における雨水利用



勾配をもつ MOBILITY の道が雨水の流水動線となり、 水耕栽培や壁面の植栽に散水などに利用される。

08. プログラム

多様な銀座の文化を発信する舞台

従前の銀座の施設より多様なプログラムが集積し、 各フロアによって全く違う顔を見せる。
それにより、 分野を超えた交流が生まれ、 人と人、 文化と文化を繋ぐ施設となる。